



目次

- 一診療連携一 「泌尿器科」のご紹介 2
- 一職場紹介一 「診療録管理室」..... 4
- 一新入職員紹介一 5
- 一お知らせ一 「画像診断のフィルムレスについて」..... 6

診療連携

「泌尿器科」のご紹介



泌尿器科
医長 松田 良一郎

当科は今年、2010年4月に開設されました。はじめにこの紙面をおかりして、当科開設にご尽力いただいた諸先生方、スタッフ関係者に改めて御礼申し上げます。

現在、私1名が常勤医として診療しております。鹿児島大学医局からの派遣体制となっております。今後、患者紹介や、入院紹介が増えてきましたら増員を検討していただけるものと期待しております。現在、手術時には紹介医の先生方や、当科大学医局医を招聘し施行しております。外来は水曜日、金曜日となっております。火曜、木曜を手術日に当てております。会員の先生方へは、待機可能な患者様は水曜、金曜のご紹介を、緊急の場合にはその限りではございませんので、いつでもお電話、ご連絡をお願い申し上げます。

まだ開設2カ月半ではありますが、当院泌尿器科での診療内容、実績を提示させていただきます（6月10日現在）。

外来は、延べ93名（4月25名、5月45名、6月23名）です。救急外来は3名（腎臓出血、尿管結石2名）でした。医師会病院の方針上、ほぼ院内外からのご紹介患者様で、飛び込み初診は少ないようです。後述いたします症状、疾患等でお悩みの患者様がいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。

入院は、延べ20名（4月4名、5月11名、6月10日現在5名）でした。疾患別では、膀胱癌、腎癌、前立腺癌、巨大水腎症、腎動脈瘤による腎出血、前

立腺肥大症、骨盤臓器脱、前立腺癌疑い、神経因性膀胱による尿閉、腎のう胞、膀胱出血、尿道狭窄などの入院でした。手術別では腎摘出術2件、腎尿管全摘術2件、経尿道的膀胱腫瘍切除術4件、経尿道的前立腺切除術1件、TVM（骨盤臓器脱に対するメッシュ手術）5件、腎のう胞穿刺硬化療法1件、膀胱瘻造設2件、Nuck管のう胞切除1件、陰嚢水腫根治術1件、尿道狭窄内視鏡手術1件などです。検査、処置としては、水腎症に対する尿管ステント留置、腎瘻造設、VUR（膀胱尿管逆流症）に対する造影検査などを行っております。

主な泌尿器疾患についてのご紹介

1. 尿路感染症

主に細菌の感染でおこり、膀胱炎と腎盂腎炎などがあります。小児から高齢者まで幅広い年齢層で経験されます。腎臓や膀胱に何らかの原因がある場合がありますので、膀胱炎を繰り返す患者様は、是非ご紹介ください。

2. 腎ガン

早期には症状がほとんどありませんので、腹部の超音波検査や他の病気の検査中、偶然に見つかるものが少なくありません。血尿を契機に発見されることもあります。手術や分子標的薬剤、インターフェロンなどを用いた薬物治療が行われます。

3. 腎盂尿管ガン・膀胱ガン

尿路の粘膜にできるガンで、血尿がみられます。腰や背中に痛みを感じることもあります。膀胱ガンは、何も症状がなく、肉眼的血尿を認めることもあります。症状がなくても、血尿に気づいたら、一度精査をお勧めいたします。内視鏡を使って切除する手術から、開腹手術が必要な場合があります。進行ガンに対する抗ガン剤治療も行っています。

4. 精巣腫瘍

若い男性の精巣にできる腫瘍は、痛みがなくて大きくなることが多く、受診が遅れます。悪性腫瘍が多く、手術と放射線治療や抗ガン剤治療が実施されます。

5. 前立腺肥大症・前立腺ガン

良性腫瘍の前立腺肥大は夜間に排尿の為にしばしば起きる、尿が出にくい、尿が近いなどの排尿の症状があり、放置しておくとう尿がまったく出せなくなることもあります。諸検査の後に、薬物治療や内視鏡手術が主に行われます。

前立腺ガンは日本で増えていると言われていますが、症状だけでは肥大症と区別できません。ガンが進行すると骨やリンパ節に転移しやすく、手術や放射線療法での根治は難しくなり、ホルモン療法が行われます。一般に早期ガンは、手術、放射線療法で根治できます。前立腺ガンは前立腺特異抗原 (PSA) を調べ、針生検で早期に病理診断が可能ですから、該当する年齢の方では検診を積極的に受けられることをお勧めします。

6. 腎・尿管結石

結石が腎臓から尿管へ移動すると急激な腰背部痛や血尿の原因になります。自然排石することもあります。体外衝撃波碎石術や、レーザーを利用した内視鏡下碎石術が必要になる場合もあります。

7. 先天性水腎・膀胱尿管逆流

先天性に尿管の流れが悪い病気です。腎臓の働き、尿の流れなどを精査して、治療や手術の方法を決定します。膀胱尿管逆流は膀胱の尿が腎臓の方へ逆流するために、小児の腎盂腎炎の最も多い原因となります。抗生物質の治療や手術が必要です。重症の逆流では治療が遅れると、腎不全に進行します。

8. 停留精巣・包茎

停留精巣は生まれつき精巣が陰嚢内に触れない病態です。悪性化の恐れもありますので、手術が必要になります。包茎は亀頭に包皮が被っている病気です。真性包茎では亀頭包皮を繰り返しますので治療が必要です。

9. 神経因性膀胱

脊柱の外傷、糖尿病、脳梗塞や神経疾患など多くの病気で起こります。尿が出にくい、尿が近い、尿がもれるなどの症状があります。膀胱の機能検査や内視鏡検査の結果をみて、主に薬物療法や間欠的の自己導尿法が施行されます。

10. 骨盤臓器脱

中高年の女性に多い病気で、膣に違和感や、臓器が触れる、下垂感などの症状があります。膀胱、子宮、直腸などが下垂している病態です。程度が強ければメッシュを膣壁内に挿入し臓器を支える手術を行います。当院では婦人科の先生と協力して行っております。

まだまだ開設して間もないですが、外来、病棟、手術室のスタッフの協力の下、スムーズな患者様対応、検査、治療ができるよう心がけております。上記疾患が疑われる患者様がいらっしゃいましたらご紹介ください。今後ともよろしく願い申し上げます。



診察風景

職場紹介

「診療録管理室」のご紹介

診療録管理室長
前田 洋志

診療録管理室は平成17年4月、外来及び入院診療録の管理・運用や同年施行された個人情報保護法等に対応すべく開設されましたが、平成21年4月から当院がDPC対象病院となったことにより、さらに従来の出来高の保険請求とは異なった包括医療によるDPCに関連した保険業務も重要な業務となっています。

ここで、少しDPCについて触れてみたいと思います。DPCとは、①医療の質の向上と情報開示、②医療の標準化と透明化、③標準的な治療と価格の明確化等を目指し、平成15年から大学病院などの特定機能病院に導入され、その後対象病院の範囲が拡大されて、平成21年度には全国で1,283施設が参加しています。

参加要件は、①7対1又は10対1入院基本料に係る届出を行っていること、②診療録管理体制加算を算定している、又は同等の診療録管理体制を有すること、③標準レセプト電算処理マスターに対応したデータの提出を含め「7月から12月までの退院患者に係る調査」に適切に参加できること、④前記③の調査において、適切なデータを提出し、かつ、2年間の調査期間の「データ/病床」比が8.75以上であること、⑤適切なコーディングに関する委員会の設置となっています。

また、平成22年度診療報酬改定では、調整係数の段階的廃止及び新たな機能評価係数の導入が行われました。これは、調整係数による上積み部分の25%を機能評価係数Ⅱ（①データ提出指数、②効率性指数、③複雑性指数、④カバー率指数、⑤地域医療指数、⑥救急医療係数）として評価するもので、厚生労働省は6年後には調整係数の全てを新たな機能評価係数に置き換えることを検討しています。

さて、DPCによる診療報酬額の算定ですが、①診断群分類毎の1日あたりの点数、②医療機関別係数、③入院日数の3要素による「包括評価」と手術・

麻酔などの「出来高評価」との組み合わせで算定され、どの診断群分類に該当するかは医療資源を最も投入した傷病名を起点に、手術名、処置、副傷病などの有無で主治医が決定します。

当室では入院医事係等と綿密に連携しながら的確に情報を提供し、主治医が精緻にコーディングできるような体制や各種統計資料からデータ分析した結果を現場にフィードバックできる体制を構築したいと考えています。

また、病院全体としては、術前検査の外来移行、DPC対応型のパスの構築、後発医薬品の採用、医療連携の充実等が必要となり、ベンチマークを利用した経営分析がこれからの課題になると思います。

今後とも診療録等の管理、個人情報の保護、さらには医師会病院の運営に係る診療報酬の算定基礎の要となるコーディングを担当する部署として、室員一人一人が慎重かつ丁寧に業務を遂行するよう心掛けてまいりますので、ご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



新入職員（新任医師）紹介

泌尿器科医長

<プロフィール>

(H 22. 4. 1～)

名 前 まつだ りょういちろう 松田 良一郎

出 身 県 鹿児島県

出 身 大学 鹿児島大学

前 勤 務 先 国立病院機構
都城病院

趣 味 映画鑑賞



4月に泌尿器科開設となり、着任致しました。先生方の御協力をいただきながら、よりよい泌尿器科診療を心掛けたいと思います。宜しくお願い致します。

消化器内科医師

<プロフィール>

(H 22. 4. 1～)

名 前 かわはな かつと 川畑 活人

出 身 県 鹿児島県

出 身 大学 広島大学

前 勤 務 先 県立大島病院

趣 味 映画鑑賞・テニス(最近全然してませんが)



今年4月から消化器内科で勤務させて頂いております。前勤務地の県立大島病院では消化器内科は3人と少なく余裕のない毎日でしたが、当院ではスタッフの数や検査件数も多く、日々勉強させて頂いております。不慣れな点もたくさんあると思いますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

麻酔科医師

<プロフィール>

(H 22. 4. 1～)

名 前 はらだ ひろき 原田 浩輝

出 身 県 鹿児島県

出 身 大学 鹿児島大学

前 勤 務 先 鹿児島大学病院

趣 味 バレーボール



4月から麻酔科に勤務しています。患者様が安全な麻酔と充実した集中治療がつけられるよう知識と腕を磨きたいと思っていますのでご指導の程よろしくお願ひ致します。

消化器内科医師

<プロフィール>

(H 22. 4. 1～)

名 前 おやま かずたか 小山 一隆

出 身 県 鹿児島県

出 身 大学 川崎医科大学

前 勤 務 先 小山クリニック

趣 味 ソフトテニス



本年、4月より消化器内科に勤務しております。研修終了後は家庭の事情により実家のクリニックの方に勤務し、地域医療に従事していました。当院では、消化器全般の診断、治療に従事し学んでいければと思っております。環境の変化に慣れるのにまだ間がかかりそうですが、部長をはじめ皆様に温かく迎えていただき、楽しく勤務させていただいております。知識や技術を磨き、患者様の役に立てるよう日々精進していきたいと思っております。今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

神経内科医師

<プロフィール>

(H 22. 4. 1～)

名 前 ひらまつ ゆう 平松 有

出 身 県 福岡県

出 身 大学 鹿児島大学

前 勤 務 先 鹿児島大学病院

趣 味 映画鑑賞



4月より神経内科に勤務しています。まだまだ未熟であり、周りにご迷惑をおかけしていますが、科の先生方をはじめ、スタッフの方々の支えもあり楽しく勤務させて頂いております。この御恩を患者様に還元できるよう、精進して参りたいと思います。宜しくお願い致します。

麻酔科医師

<プロフィール>

(H 22. 4. 1～)

名 前 ぬまの あやこ 沼野 綾子

出 身 県 鹿児島県

出 身 大学 鹿児島大学

前 勤 務 先 鹿児島大学病院

趣 味 ピアノ



よろしくお願ひします。

お知らせ

CT・MRI 検査の画像提供に関するお知らせ

鹿児島市医師会病院 院長 田畑峯雄

平素より当院に CT・MRI 検査をご依頼いただき感謝申し上げます。

当院では院内ネットワークおよび画像参照用端末機器の整備により、本年7月より院内の画像診断は一部を除いてフィルムレスに移行しました。これまで放射線科の画像診断はフィルムとモニター読影を併用して参りましたが、今後はモニター読影のみで行う事になります。これに伴って院外からの検査依頼の場合、画像診断報告書と共にお渡しする画像は CD を原則とさせていただくことをお知らせいたします。当院では院外からの検査依頼の場合、患者さんへの結果説明はしておりませんので、先生方にご不便をおかけしないように、ご要望に応じてこれまで通りのフィルム出力も継続していく予定です。ただし、経費節減の都合上、フィルム枚数の増加を避けるべく、CD と同じ画像ではないことをご了承ください。



問い合わせ先

鹿児島市医師会病院 放射線科 矢野武志

放射線室 橋口 満

TEL 099-254-1125

FAX 099-254-7691

鹿児島市医師会病院 連携室だより No.16

創刊日：平成17年8月10日

発行日：平成22年8月10日（年3回 4・8・12月発行）

発行者：〒890-0064 鹿児島市鴨池新町7番1号

鹿児島市医師会病院 院長 田畑 峯雄

担当：医療連携・相談室

TEL：099-254-1125（代表）

TEL：099-254-1121（医療連携・相談室）

FAX：099-254-1308（医療連携・相談室）

ホームページ：<http://city.kagoshima.med.or.jp/kasiihp>

ご意見などございましたら、お気軽にご連絡ください。